

N I E で新聞に親しもう

～つながり・学び・発信するN I E～

三木市立中吉川小学校 校長 岸本公一
教諭 下田広行

1 はじめに

本校の研究テーマは、「自分の考えを生き生きと表現し、主体的に学習する子の育成一言語活動の工夫を通して」である。6年生を対象に、まずアンケート(4月19日実施)を実施した。その結果から、新聞を1日にどの程度読むかについての答えでは、約70%の児童が読まないと答えていた。また、どのような記事を読むかについては、テレビ欄や4コマ漫画欄、スポーツ欄と答えた児童が大半だった。こういった実態から、まずは、新聞に親しませることが大切であると捉え、その中で、研究テーマに迫る学習をしていきたいと考えた。

また4年生では、写真の効果的な活用の仕方やそれに対しての文章の書き方について、新聞から学び活用した。どういう意図があってアップにしているのか、ルーズにしているのかを話し合い、撮影者の思いに迫ることで学習を進められた。5年生では、新聞の中にあるコラムを活用して「人の生き方」について学んだ。その方の人生観に触れ、自分との生き方を比べながら考えを深め合うことができた。

2 実践の概要

①ニュースウォッチング

ニュースウォッチングは、自分の気になった記事を選び、選んだ理由、その記事に対して4人に意見を聞き、自分で考えをまとめる取り組みである。ニュースウォッチングについては、週1回の家庭学習として取り組ませ



《新聞記事について発表》

た。15人学級で月～金曜日までの5日間で、毎日3人ずつ朝の会において発表させた。この学習を通して、新聞に親しむ素地を養えたように感じる。また、新聞から情報を読み取る力、インタビューする力、発表する力もつき、発表を聞く側も興味を持って新聞記事の内容を聞くことができた。



《4コマ漫画の読み取り》

②4コマ漫画は社会を見る目

子どもたちが興味を持って進んで読もうとするのが4コマ漫画である。初めは、ただ漫画を読んでいた子どもたちだったが、その中に社会問題などの情報がタイムリーに組

み込まれていることを知り、さらに興味深く読むことができた。

③お〜い、見出し大集合

新聞には、記事を要約した小見出しがある。記事の中から、どのような見出しがあるのか興味を持ったものを集めて、それがどのようなねらいでどのような効果があるのかについて学習した。子どもたちの中から、「字の大きさや体言止めなどを用いて、興味を引くようにしている」「色を効果的に活用している」など、みんなで見出しについて学習を深めていくことができた。



《見出しを拾う》

④ひらめき数字クイズ

新聞には、数字がたくさんある。数字は、より記事を具体的にするためのデータである。その数字を基にして、子どもたちにクイズを考えさせた。例えば、問題「33億円。この数字は何を表すでしょう」「ヒントは、①岩手・久慈に観光客が2012年に比べて12倍②じえじえじえ」答えは、「あまちゃんの経済効果である」など、子どもたちにも関心のある問題をテーマにクイズを考えさせて交流した。

⑤新聞の読み比べ

教室前の廊下に、その日の新聞を並べていつでも見られるようにしている。子どもたちは、休み時間に進んで読んでいた。その時に、ただ新聞を読むだけではなくて、いろんな新聞の1面を読み比べようと伝えている。新聞には、同じ事件でも記者によって写真の使い方や記事の書き方には違いがあるというこ

とを授業の中で学習した。



《数字を探そう》



《新聞の読み比べ》

⑥新聞社の記者派遣

神戸新聞社北播総局の吉岡猛逸総局長から、新聞記事の書き方や新聞記者の1日について教えていただいた。教科書には載っていない生の声を聞くことができ、子どもたちは興味津々で話を聞いていた。



《記者に学ぶ》

⑦コンクールへの応募

1学期、新聞に慣れ親しんできたことを生かして、「ひょうご新聞感想文コンクール」や「いっしょに読もう！新聞コンクール」に6年生全員、それぞれの課題に対して自分なりの意見を整理し、感想文にまとめあげた。ひょうご新聞感想文コンクールでは、学校賞をいただくことができ、子どもたちへの自信につながった。

3 児童の感想から（12月18日に記載）

- ・前は、全然新聞を読まなかったけど、NIEに取り組んで以前より新聞を読むようになりました。新聞は、これからも読み続けたいです。
- ・小見出しや4コマ漫画などのポイントを絞った学習を通して、新聞の見方が変わりました。見方を変えると、さらに新聞が面白く見られると思いました。
- ・ニュースウォッチングを通して、普段あまり見ていない記事を読むと、たくさんを知ることができました。友達の発表を聞いて、新しく知ることもありました。NIEのおかげで、新聞を読むようになったし、記事に対してどう思っているのか、みんなの意見を聞くことができたので、いろんな知識が身につきました。
- ・新聞記者の方の話を聞いて、どのように新聞を作っているのか聞いてよかったです。教科書では学べないことや興味のあることだったので、うれしかったです。実際に習ったことを生かして新聞を作ってみると、前に作っていたときよりも「具体的で見やすい」と友達に言われて、うれしかったです。
- ・私は、NIEを通して考える力が身についたと思います。なぜなら、新聞を読んで、「な

ぜそうなったのだろう」とか「わたしは、こう思うな」など、新聞記事に対して意見を持って考えるようになったからです。家族や友人とも新聞について話すことが楽しかったです。

- ・新聞を通して、家族との会話が増えたように感じます。NIEを学習するまでは社会問題について家族と話をすることはなかったけど、普段の会話から新聞の内容が話題になっていたので、NIEを学習して会話の幅が広がったように感じます。
- ・NIEの学習を楽しんでできました。新聞の記事を比較したり、共通点を見つけたりする学習は面白かったです。授業で新聞を使ったり、取り上げてもらったりしたときは、とても分かりやすかったです。NIEで勉強した後に、ニュースで見たり、関連した記事が出たりすると、さらに興味を持ってその社会問題を見ることができたので、学習してよかったなと思いました。



《効果的な見出しを探そう》

4 成果と課題(◎と□)

- ◎ニュースウォッチングを通して子どもたちが、新聞に親しめ、新聞のよさを感じることができたことが一番の成果である。
- ◎新聞記事の5W1Hや小見出しの効果的な書き方を学んでいくことで、社会の歴史新聞

や修学旅行新聞など、学んだことを生かして書くことができた。

◎小見出しや数字、4コマ漫画、読み比べなどに着目して学習していくことで、多様な新聞の見方を学習できた。

◎4月と12月のアンケート結果を比べると、新聞を読む機会が増え、地域欄や社会欄などを読む児童が増えた。家族の方からも感謝の声をたくさん聞くことができた。



《NIEの学習掲示》

□毎日送られてくる新聞を上手に活用することができなかった。

□どの教科と新聞を関連付けるのか、教師側の深い教材研究が必要であると感じた。

□単元構想をきちんと練った上で、継続して学習を進めていく必要があった。

□新聞の中には、難しい漢字や内容があるので、教師側がきちんと説明できる知識が必要であると感じた。



《ニュースウォッチングの掲示物》

5 おわりに

今年度、初めてNIEに取り組み、試行錯誤の中で学習を進めた。実践していく中で、子どもたちは新聞に親しむことができ、新聞に興味を持ち始めた。ニュースウォッチングで、新聞に対する素地を養い、土台を作ることが大きな成果につながった。子どもたちから、「こんな記事があったよ」「先生は、この記事についてどう思う？」など、記事に対して関心を持つようになり、主体的に学ぶ姿勢が身についていった。

また、だんだんと分からない漢字や言葉の意味を辞書で調べるようになり、語彙力が幅が出てきた。通年での取り組みにより、書くということに対する抵抗感がなくなり、まとまりのある文章を書けるようになってきた。さらに、家族や友人に記事についてインタビューをして交流する場をつくったことで、社会問題について意見を交流するという言語活動の機会をつくることができた。

児童の感想にもあるように、NIEを通して「自分の考えを生き生きと表現し、主体的に学習する」という本校の研究テーマに、少しは迫れたのではないかと考える。しかし、新聞の活用方法や学年に応じた指導など課題はたくさんある。今後、さらに教材研究を重ね、生きた教材である新聞をどの学年でも活用できる方法について研究していきたい。